

はないく児童クラブ支援員としての心得 (報告・連絡・相談)

すべては日のもとに 陰をつくってはいけない

① 目配り ② 気配り ③ 心配り ④ 行動に移る

1. いつも、今は何をすべき時なのかを考えながら行動しよう。
2. 子どもがいるときは、視野を広く持とう。
3. 随時、子どもたちの顔色、表情を観察するよう心掛けよう。
4. どこへ行ってもまずは危険な場所をチェックしよう。
5. 迷ったときには、まず「子どもにとって一番良いのは・・・」と考えてみよう。
6. 体を動かすことを惜しまず、笑顔で行動しよう。
7. 今やっている仕事が全体から見て、どの役割を果たすのか考えないと、的外れな所ばかり凝って、主な部分がおろそかになることがある。
8. 全体構想、段取り、準備までが8割。そして、実行。
9. 自分の考えの前に、施設長（代表社員中西）の教育方針が前提にあることを忘れずに。
10. 子どもに、余裕のある指導をする為には、まず、職場の人間関係を大切にしよう。

言葉・礼儀・感謝

11. はないく児童クラブは、施設長を中心としたチームで動いています。
個人で動くときは、必ず事前の報告を、施設長にするのが原則です。
12. 自分の仕事は仲間の仕事に気を配ってこそ、初めて成し遂げられる。
13. 上司、先輩、そして保護者の意見に対して、まずは、受け入れることが第一歩。
その意見を尊重しながら、今の状況にあった適切な判断をしていこう。
14. 組織内で力を合わせて活動するときは、暗黙の了解をせず、
「①誰が」「②いつまでに」「③なにをする」 この3点を明確にしよう。
15. 1つのことを学んだら、まずは自分でやってみよう。
そして、大切なことは、それを自分なりにアレンジすることです。
16. 自分の特技を子どもたちへの指導に生かす工夫をしよう。
指導員も子どもたちも、生き生きとしてきます。